

高砂市民病院移転候補地の考え方について

高砂市民病院の移転候補地については、令和 6 年 1 月に策定した「高砂市民病院将来構想」(以下将来構想という)では、山陽電鉄高砂駅周辺または荒井駅周辺としている。

その後、具体的な検討を重ねた結果、現高砂市文化会館の敷地を移転候補地とした。

【移転候補地の絞り込み、比較】

(1) 令和 6 年 1 月時点【将来構想策定時】

次の 4 案を移転候補地とし、検討を行っていくとした。

案	場所(面積)
1	文化会館敷地 (約 16,800 m ²)
2	市民プール敷地 (約 9,000 m ²)
3	A企業所有地(荒井駅南) (約 15,000 m ²)
4	B企業所有地(高砂町内 旧商業施設) (約 15,000 m ²)

(2) 令和 6 年 10 月時点

将来構想では、外部有識者で構成された「高砂市民病院将来構想検討委員会」の答申も考慮し、①アクセス性、②利便性、③防災性、④民間病院との位置関係、⑤現在の患者の地域動向、⑥病院建築に必要な面積以上の土地(約 15,000 m²程度)を条件として検討し、現市民病院医療圏を変えない山陽電鉄高砂駅周辺または荒井駅周辺としている。

その結果、次の表のとおりメリット・デメリットを整理し、4 案から 2 案に絞った。

案	場所(面積)	メリット・デメリット	判定
1	文化会館敷地 (約 16,800 m ²)	<メリット> ・4 案のうち、唯一、山陽電鉄踏切の北側に位置している。また、朝夕の交通渋滞が発生する度合いも小さい。 ・市有土地であるため、用地購入に係る費用および手続き等の事務が不要。	○
		<デメリット> ・文化会館を建替える場合、建設事業を新病院建設と同時または前後で実施する必要がある。 ・加古川破堤・越流の可能性もゼロでないことから、通常の浸水対策に加え、対策の強化を検討する必要がある。	
2	市民プール敷地 (約 9,000 m ²)	<メリット> ・市有土地であるため、用地購入に係る費用および手続き等の事務が不要。 ・山陽電鉄より南側であるが、将来的には連続立体交差事業の完成により、交通分断はなくなる。	×
		<デメリット> ・敷地が狭あいで、北側に住宅地がある。 ・緊急車両を含め、連続立体交差事業完成までは荒井陸橋または荒井踏切を通過しなければならない。	

3	A企業所有地 (荒井駅南) (約 15,000 m ²)	<メリット> ・<u>山陽電鉄荒井駅南から近い。</u> ・山陽電鉄より南側であるが、将来的には連続立体交差事業の完成により、交通分断はなくなる。	○
		<デメリット> ・工業地域のため、都市計画手続き(用途地域の許可)が必要。 ・連続立体交差事業完成までの間、特に西側市道の交通安全対策と交通渋滞対策が必要。 ・緊急車両を含め、連続立体交差事業完成までは荒井陸橋または荒井踏切、神鋼前踏切を通過しなければならない。	
4	B企業所有地 (高砂町内 旧商業施設) (約 15,000 m ²)	<メリット> ・山陽電鉄高砂駅から近い。 ・民間病院(現医療モール)も含めた整備計画が可能。 ・山陽電鉄より南側であるが、将来的には連続立体交差事業の完成により、交通分断はなくなる。	×
		<デメリット> ・<u>民間による開発計画がある。</u> ・<u>現医療モールと診療科目が重複する可能性がある。</u>	

(3) 最終比較

2 案について次の表のとおり比較検討を行い、文化会館敷地を移転候補地とした。

評価項目		文化会館敷地		A企業所有地 (荒井駅南)	
土地の状況	所有者	◎	市	○	民間
	面積	◎	約 16,800 m ²	◎	約 15,000 m ²
	用途地域	○	第 2 種住居地域	△	工業地域のため、病院を建てるには都市計画手続きが必要
アクセス性	公共交通	◎	山陽電鉄高砂駅周辺	◎	山陽電鉄荒井駅周辺
	駅からのアクセス	○	駅から徒歩約 5 分 (北東へ約 400m)	◎ (△)	駅前 (工事中は仮設の歩道を通る必要がある)
	コミュニティバス	◎	既存ルートの再編で対応できる	◎	既存ルートの再編で対応できる
利便性	市中央部との位置	○	中央部から南東に偏っているがアクセスしやすい	○ (△)	比較的近い (線路により分断されている)
	前面道路	◎	市道本町幹線道路	◎ (△)	市道荒井 192 号線 (山陽電鉄の踏切が近い)
	周辺主要道路の状況	◎	国道や一般県道、市道幹線道路を経由してアクセスできる	◎ (△)	国道や一般県道、市道幹線道路を経由してアクセスできる (線路により分断されている)
	交通渋滞の状況	○	一時的に発生している	○ (△)	一定程度解消されることが見込まれる(朝夕の通勤時間帯に発生している)
防災性(ハザードマップ)	計画規模降雨 (100～150 年に 1 回程度の大雨)	○	想定される浸水 0.5m～3.0m	○	想定される浸水 0.5m～3.0m
	想定最大規模降雨 (1000 年に 1 回程度の大雨)	△	想定される浸水 3.0m～5.0m 家屋倒壊等氾濫想定区域	○	想定される浸水 0.5m～3.0m
	南海トラフ	○	震度 6 弱 液状化危険度 かなり低い	△	震度 6 強 液状化危険度 極めて高い
	土砂災害(特別)警戒区域	◎	なし	◎	なし

評価項目		文化会館敷地		A企業所有地 (荒井駅南)	
民間病院との位置	回復期機能を持つ病院	◎	現市民病院から近く、 距離は大きく変わらない	◎	現市民病院から近く、 距離は大きく変わらない
	個人病院	◎	現市民病院から近く、 他の医療機関と競合しない	◎	現市民病院から近く、 他の医療機関と競合しない
現在の患者の地域動向	現市民病院との距離	○	約 800m	◎	約 400m
	現市民病院跡地に 医療機能を残す必要性	◎	なし	◎	なし
救急搬送	渋滞状況	○	一時的に渋滞は発生するが、 前面道路の幅員は 確保できている	○ (△)	一定程度解消される ことが見込まれる (朝夕の通勤時間帯に 渋滞が発生する)
	山陽電鉄踏切	◎	線路北側に位置しているため、 踏切遮断の影響を受けにくい	◎ (△)	タイムロスはなくなる (踏切遮断時は 停車しなければならない)
建設工事	駐車場整備	△	駐車場台数次第では、 立体駐車場整備が必要	○ (△)	取得面積次第では、 平面駐車場が可能 (工事中の作業ヤード確保が必要であり、広い面積を取得することは難しい)
	周辺整備等	◎	周辺道路整備の検討が必要	△	周辺道路の整備に加え、 上下水道の整備の検討が必要
その他	開院後の周辺環境	◎	公共工事は予定されていない	△	連続立体交差事業が予定 されており、工事中は病院への アクセスが時期によって変わる
	連続立体交差 事業の影響	◎	あまり影響を受けない	△	大きい
総合評価		◎		○(△)	

※A企業所有地(荒井駅南)のカッコ書きは、連続立体交差事業の工事前または工事中の評価を示している。